下北ジオパーク推進計画

Shimokita Geopark Promotion Plan

海と生きる「まさかり」の大地

～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～

下北ジオパーク推進協議会

２０２１年4月9日　改定

～ 目 次 ～

第１章　はじめに 1
１　ジオパークとは 1
２　下北ジオパークの概要 4
３　下北ジオパークの目的 5
４　これまでの経緯 6
５　計画の策定目的と役割、期間 8

第２章　基本理念 9

第３章　運営体制 10
１　運営体制の明確化 10
２　運営体制図 11

第４章　現状と課題 12
１　ジオパークを取り巻く動向 12
２　下北ジオパークの現状 12
３　指摘された課題 13
４　地域振興の課題 14
５　学習・教育への活用に関する課題 16
６　防災・減災の課題 17
７　研究活動の推進に関する課題 17
８　地域資源の保全における課題 19
９　無形文化遺産の活用に関する課題 19
10　可視性（ビジビリティ）の整備の課題 20
11　国際対応の推進における課題 21
12　ネットワーク活動の推進に関する課題 21
13　ＳＤＧｓへの取り組みに関する課題 21

第５章　下北ジオパークの推進と展開 22
１　地域振興 22
（１）住民活動の支援 22
（２）物産の振興 23
（３）サスティナブルツーリズムの推進 24
（４）ジオガイドの養成 25
２　学習・教育への活用 26
（１）ジオパークを活用した学習の推進 26
（２）生涯学習でのジオパークの活用 27

（３）学習活動発表会の開催 28
（４）ジオパークを活用した学びの深化 29
（５）環境教育の推進 30
３　防災・減災 31
（１）ジオパークとしての防災・減災へのアプローチ 31
（２）防災教育の推進 32
４　研究活動の推進 33
（１）学識経験者・有識者との連携 33
（２）研究者の受け入れ体制の整備 34
（３）研究の推進 35
（４）研究成果の周知 36
５　地域資源の保全 37
（１）地域資源の価値の明確化 37
（２）保全体制の構築 38
（３）地域住民との連携 39
６　無形文化遺産の活用 40
（１）無形文化遺産の活用 40
７　可視性（ビジビリティ）の整備 41
（１）ビジターセンター、拠点施設の活用 41
（２）各種看板の設置 42
（３）パンフレットの整備 43
（４）メディアプロモーション 44
８　国際対応の推進 45
（１）国際対応の推進 45
９　ネットワーク活動の推進 46
（１）ネットワーク活動の推進 46
（２）パートナーシップの構築 47
10　ＳＤＧｓへの取り組み 48
（１）ＳＤＧｓの周知活動の推進 48

第６章　進行管理と推進計画の検証 49

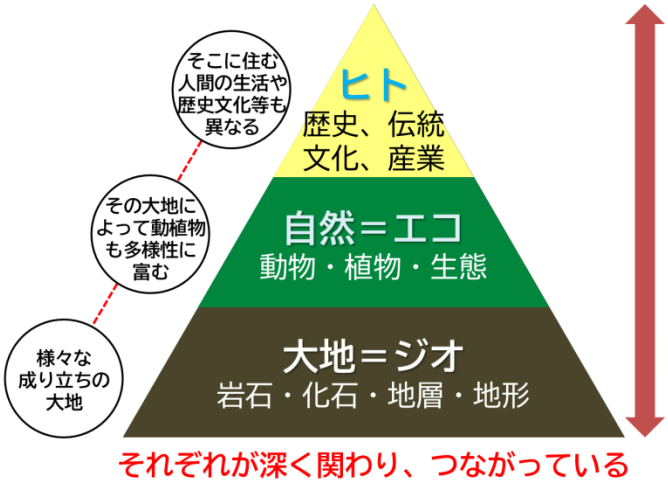
第１章　はじめに

１　ジオパークとは

（１）ジオパークとは

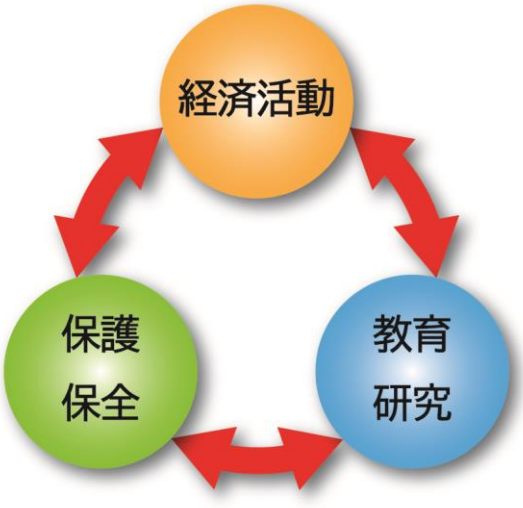
地球や大地の「ジオ（Ｇｅｏ）」と、公園の「パーク（Ｐａｒｋ）」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」という意味です。ジオパークは科学的に見て貴重な、あるいは美しい地形・地質遺産（地層、岩石、断層、火山など）を有する地域において、大地と大地の上に広がる動植物の多様性や人々の暮らし、育まれてきた歴史や文化のつながりを学び、楽しむ場所です。

また、地域住民、関係団体や地元自治体が中心となって、自ら考え行動するボトムアップの推進体制のもと、地域資源を活用した教育、ツーリズムとその関連事業を展開することで持続可能な地域開発を進めます。全体の活動状況は４年に一度の再認定審査によってチェックされ、常にその品質の維持と向上が求められます。



ジオパークの対象

大地（ジオ）の上に広がる動植物や生態系（エコ）の中で私たち（ヒト）は生活し、文化や産業を築き、歴史を育んでいます。



ジオパークの活動

ジオパークは、「保護・保全」、「教育・研究」、「経済活動」の３つの柱がうまく動くことによって成り立ち、持続可能な開発を進めることができます。

（２）ユネスコ世界ジオパーク

ジオパークは、ユネスコ環境・地球科学部門の支援により2004年に世界ジオパークネットワーク（ＧＧＮ）が設立されスタートしました。日本においては、2008年に国内の認定機関として日本ジオパーク委員会（ＪＧＣ）が発足し、認定地域により2009年に日本ジオパークネットワーク（ＪＧＮ）が設立されました。2015年にユネスコの正式事業となり、ユネスコ世界ジオパーク（ＵＧＧｐ）として様々な基準が定められてきています。ＪＧＣはユネスコの国内認定審査機関としての役割を担うこととなり、2019年には国内ジオパークは将来的にＵＧＧｐを目指す地域として位置付けることと、ユネスコ国内委員会の認証の下、ＵＧＧｐガイドラインに沿った審査やアドバイスを実施することが定められました。2015年に示されたＵＧＧｐ作業指針では、ジオパークの基準を次のように定義しています。

（ⅰ）国際的な地質学的価値のある地形・地質遺産を含み、明確に定義できる境界を持つ地理学的地域。そこでは、保護、教育、研究、持続可能な開発の総合的な考え方で管理されている。

（ⅱ）地質遺産と自然・文化遺産とが連携し、社会が直面する地球重要課題の解決を目指す。

（ⅲ）法的な管理組織による適切な運営が必要（資金・施設）。

（ⅳ）他のユネスコ遺産と重なる場合は、ジオパークブランドと相乗効果が必要。

（ⅴ）地域住民や関係者、土着住民など、全てを巻き込んだ経済的、文化的、遺産保護の活動。

（ⅵ）ＧＧＮで経験の共有や共同プロジェクトへの参加。ＧＧＮ入会が義務。

（ⅶ）地質遺産は法的に保護されていなければならない。地質標本の販売や持続可能でない地質資源の貿易の禁止。正当化される理由があればジオパークカウンシルが承認する。

（ⅷ）これらの基準は審査や再審査の際にチェックリストで確認される。

（ユネスコ世界ジオパーク作業指針　和訳版　第３章要約）

（３）ＳＤＧｓの取り組み

世界的な取り組みとして、持続可能な開発とその目標であるＳＤＧｓが挙げられます。持続可能な開発は「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」と定義づけられており、2015 年に開催された国連持続可能な開発サミットにおいて、17 の目標と 169 のターゲットからなる「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」が掲げられました。2030 年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく取り組みが求められています。

ユネスコ世界ジオパークにおいては、ジオパークの事業内容を踏まえ、以下の８目標を重点項目としています。下北ジオパークでもこれらを踏まえて取り組むとともに、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさも守ろう、も考慮し取り組んでいきます。また、地域住民が参画する活動がＳＤＧｓに結びつくことを周知するため、本計画の第５章に盛り込んでいます。

重点項目８目標　　下北の考慮する２目標

参考：国際連合広報センターＨＰ

UNESCO Global Geoparks contributing to the Sustainable Development Goals

２　下北ジオパークの概要

下北ジオパークは、本州最北端となる下北半島の北部地域をエリアとし、東北日本を構成する多様な地質と海洋環境、それらに支えられている豊かな生態系と人々の営みにアプローチができることが特徴のジオパークです。

東北日本を構成する多様な地質とは、「付加体」と「日本海拡大期の海底火山噴出物」、「第四紀火山」、それらをつなぐ「堆積平野」の４つのことです。

◯付加体は日本列島の主要な土台を形成する地質であり、海溝で沈み込む海洋プレート上の海底堆積物が、大陸プレート側に付け加わる作用でできました。この付加作用が起こった時期には日本列島の土台は大陸の縁にありました。

◯2300 万年前頃から 1350 万年前頃まで、大地に海側へ引っ張る力がかかり、大陸から周縁部が裂けるように移動し、列島となっていきます。この時できた大陸との裂け目に海水が入り込み、日本海が誕生しました。この時、海底では活発な火山活動が起こっていました。

1350 万年前頃からは、海側へ引っ張りの力と大陸側へ押す力が釣り合い、大陸から離れた陸地の北東部が「東北日本弧」という島弧として発達していきました。力の釣り合いが取れた大地には断層などの割れ目が少なく、日本海拡大時の余韻の熱がマグマとして地下に多量に蓄えられていました。この時代の後半に、巨大となったマグマ溜まりが元となって噴火を伴う多くの巨大カルデラが形成され、東北日本弧は脊梁山脈を主軸にゆっくりと隆起しました。

◯300 万年前以降、大陸側へ押す力が優勢となって東北日本弧は東西方向へ強い圧縮の力がかかるようになりました。このときに日本海の海底が東北日本弧の下に沈み込みを始めたとも考えられています。その結果、東北日本弧全体が急激に隆起していきました。隆起に伴って恐山山地と下北丘陵が海面上に現れ、恐山山地の東部では火山灰などを広く噴出する火山噴火が起こりました。

◯第四紀（258 万年前から現在）には、山が侵食され、流れ下った土砂が周囲の海を埋めていきます。第四紀は氷河時代でもあり、隆起と海面の高さの変動によって堆積平野ができあがり、さらに東部の丘陵地と西部の山地が繋がり現在の下北の大地が完成しました。

また、島と違い半島地域であるがゆえに、大地が海をさえぎっていることも下北地域ならではの環境を生み出しています。東に位置する太平洋は「荒く、力強い海」

であり、対馬海流と沿岸親潮が流れ込む津軽海峡は「速く、豊かな海」、そして大地に囲まれた陸奥湾は「静かで穏やかな海」と、一言で「海」とくくれないほど、表情が全く異なる海に囲まれています。

このうち津軽海峡は、海面が今よりずっと低かった最終氷期でも、北海道と下北地域を隔てる存在であったとされています。このため、下北地域は多くの陸上生物の分布北限になっています。生物の分布が大地に影響されることを示す好例も多く、大地と生態系のつながりを感じるモデルとなるジオパークともいえます。

そして、京や大坂、江戸から遠く離れた地であり、半島という「地理条件」に伴う陸上交流への制約によって、伝承以来、形を変えずに現代まで守り継がれている文化や、下北地域を代表する「恐山」への信仰についても、本ジオパークを楽しむ上で欠かせないものです。

このようなことから、下北ジオパークのテーマは、“海と生きる「まさかり」の大地～本州最北の地に守り継がれる文化と信仰～”とし、ロゴマークは地形・地質と海を分かりやすく伝えるための形状・配色に定められました。

SHIMOKITA GEOPARK

ロゴマーク

エリアマップ

３　下北ジオパークの目的

下北ジオパークの目的は、地域の貴重な地形・地質遺産と、それに関連する自然と文化を有するサイトの保全を前提に、教育や学習に活用することで地域の魅力を再発見し、**「郷土愛の醸成」**を図ること、また、ジオパークを活用した経済活動を各産業に発展・波及させることで**「地域の価値（ブランド力）向上」**を図ることです。

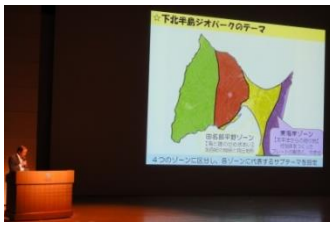
また、上記目的を一層推進し、世界に誇れる下北地域を確立するため、下北ジオパークはユネスコ世界ジオパークを目指します。

４　これまでの経緯

下北ジオパークは、2016年９月９日に日本ジオパークネットワークに加盟認定され、ジオパーク活動を展開しています。認定に際しては、2014年の認定見送り以後、自治体や各種地域団体、住民が一丸となって様々な活動を行った結果、地域内でジオパークに期待する声が多く聞かれるようになり、地域のジオパークに対する期待感が大きく向上したことが高く評価されました。

また、2020年の再認定審査では、認定時に受けた指摘に概ね対応しており、様々な点で着実な進歩が見られることが評価され、再認定となりました。

現在までの主な活動の軌跡は次のとおりです。

年月・出来事		写真
2009 年４月	下北半島ジオパーク構想への第一歩下北総合開発期成同盟会で調査・検討開始	
2013 年１月	下北半島ジオパーク構想推進協議会設立	
2014 年３月	日本ジオパークネットワークへ加盟申請	
８月	加盟認定見送り	
10 月	再申請することを協議会臨時総会で決定	2014 年　公開プレゼン
	一丸となって取り組むべき課題の見直し	
2015 年４月	下北ジオパーク構想推進協議会へ名称変更	
11 月	下北ジオパーク住民会議開始	
2016 年４月	日本ジオパークネットワークへ再申請	
９月	日本ジオパークネットワークに加盟認定	
	下北ジオパーク誕生	2016 年　加盟認定
10 月	日本ジオパークネットワーク全国大会において認定証の授与	
	下北ジオパーク推進協議会へ名称変更	
2017 年２月	下北ジオパーク新ロゴマークが決定	
７月	国立研究開発法人海洋研究開発機構と包括連携協定を締結	新ロゴマーク決定
11 月	台湾野柳地質公園と連携協定を締結	
	認定商品制度スタート	
2018 年２月	第１回学習・研究・活動発表会開催	
５月	下北ジオパークガイド認定	
８月	第７回東北ジオパークフォーラムを開催	東北フォーラム開催

年月・出来事		写真
2019年５月	学術研究発表会開催	
６月		
９月	ジオフェス 2019 開催	
2020年１月	下北ジオパーク in 上野動物園開催	
	サイト再整理	ジオフェス下北2019
10月	下北ジオパークガイドブック発売	
	下北ジオパークビジターセンターオープン	
	2020 年度日本ジオパーク再認定現地調査	
2021年２月	2020 年度日本ジオパーク再認定審査結果報告会	
	～再認定決定～	再認定決定
	下北ジオ検定 2021 開催	

５　計画の策定目的と役割、期間

（１）計画の策定目的

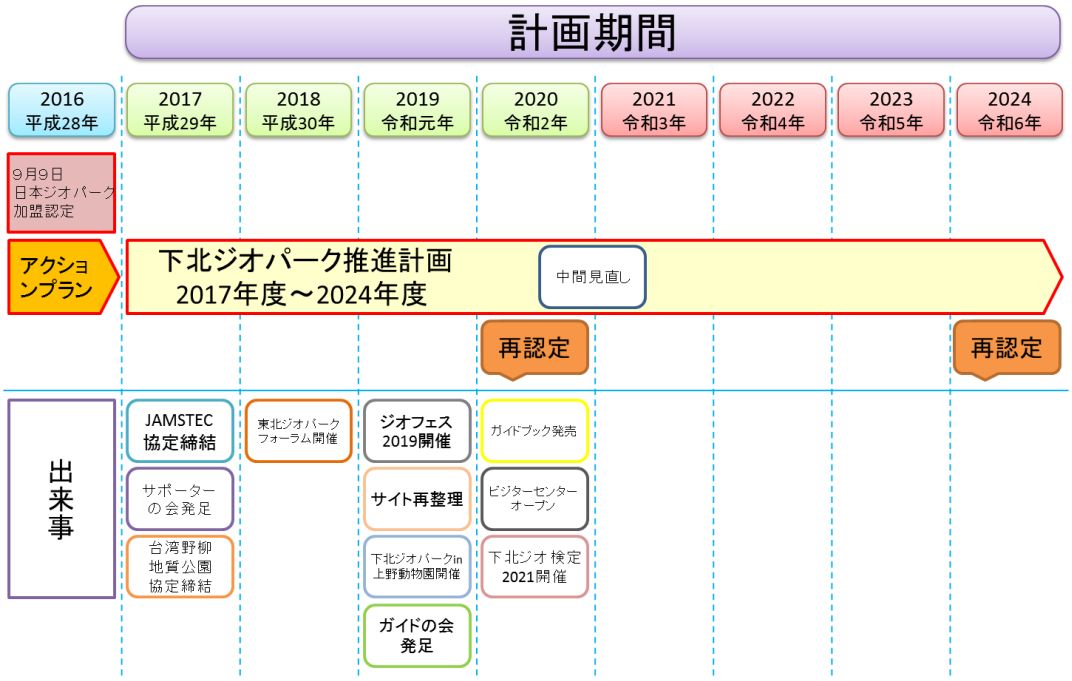
本計画は、下北ジオパークにかかわる全ての人達・団体によるジオパーク活動の推進を通して、持続可能な地域社会の実現を目指すための総合的な指針とするために策定します。

（２）計画の役割

下北ジオパーク推進計画は、ジオパークの３本柱（保護・保全、教育・研究、経済活動）における各活動の指針であり、ＰＤＣＡサイクルに沿った効果的かつ効率的な事業の実施を図るための計画です。中間見直しとして位置付けてある2021年度の計画の改定に当たっては、再認定審査の指摘事項やユネスコ世界ジオパーク作業指針に示された基準、再認定審査時に確認される自己評価表を基に課題を抽出し、今後の進むべき方向性を具体的に示し、ジオパーク活動をよりわかりやすく進めるための情報として利用し活用します。

（３）計画の期間

計画期間は８年間として、前半の４年間は再認定を念頭に基盤づくりを主体的に推進し、後半の４年間は将来のユネスコ世界ジオパーク認定を見据えた活動に取り組みます。



第２章　基本理念

「みんながつながる！下北ジオパーク」

ジオパークは、持続可能な地域社会を目指すために、将来世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代が必要とするものを満たすこととされており、この地域に住み活動する全ての人々がこの理念を理解し、下北ジオパークを次世代へつなげることが必要です。

このためには、私たちがこの地域の持つ価値を十分に理解し、その活用と保全に向けた良い方法を模索し、創造的な地域づくりを進める必要があります。

各項目・事業については下北ジオパークに与える影響や効果、将来像を十分に認識し、誰もが楽しく活動できることを基本理念として各活動に取り組むものとします。

ちぢり浜

第３章　運営体制

１　運営体制の明確化

下北ジオパーク推進協議会には、協議会参画団体の全構成員によって組織される総会と協議会の運営について具体的な検討、計画を行う幹事会、協議会の具体的な運営、事業を推進する専門部会、協議会の事務を処理する事務局が置かれています。

専門部会は2017年３月に示されたユネスコ世界ジオパーク再認定指針に対応して「保全・研究部会」、「教育・防災部会」、「地域振興部会」へと再編しており、それぞれの専門部会に協議会参画団体は割り振られています。また、自治体担当者で構成される事務局は人員を増やし、運営体制の強化を図りました。

この組織体系のもと意思決定を迅速にするため、2018年度からは各種専門部会と事務局の役割を明確にしました。

「保全・研究部会」は、地域資源の新しい知識を蓄え、新たな知見を取り入れるとともに、地形・地質をはじめ生物の多様性や人間の歴史、暮らし、風習、信仰など、地域資源の保全を推進します。

「教育・防災部会」は、自然と人間とのかかわりを理解し行うジオパークを活用した学習の推進や、郷土愛の醸成や持続可能な社会づくりへ参画する教育活動、さらには、科学教育や防災教育を推進します。

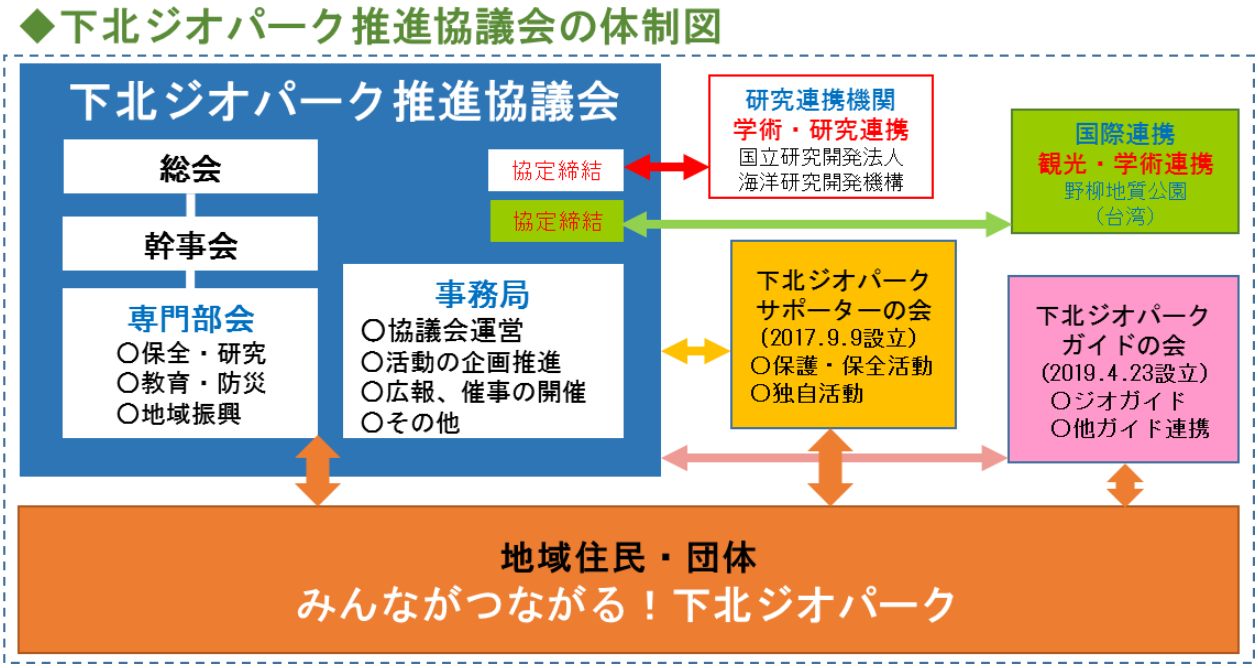
「地域振興部会」は、ジオパークを活用し、この地域ならではの魅力を内外にＰＲしながら、人を呼び込む仕掛けづくり（ツアーや商品開発など）を行い、地域振興を推進します。

事務局は、広報活動やイベント開催、パンフレット類の原案作成を担い、事業に応じて市町村の担当部局との調整を行います。

３部会の連携を図るための対応として、複数部会への所属を認めるとともに、専門部会の合同会議等を行うものとします。また、共通する課題などを協議するため、随時有識者・当事者を加えたワーキンググループを設置します。

さらに、誰もが下北ジオパークに携わることができるボトムアップ体制を推進するため、理念の共有や意見交換が必要な際には住民会議を行います。

２　運営体制図



総会の様子

専門部会の様子

第４章　現状と課題

１　ジオパークを取り巻く動向

日本のジオパーク活動は、2007年10月に開催された「日本ジオパーク連絡協議会発起人会」からスタートしており、2009年に日本ジオパークネットワークが誕生しました。日本ジオパークネットワークでは、ジオパークに関するマーケティング、ステークホルダーの巻き込み、人材育成のための活動強化の３つを重点事業としており、ジオパーク活動を広げ、影響力のある新たなジオパーク活動の担い手を求めています。

また、2015年11月に世界ジオパークが「ユネスコ世界ジオパーク」（ＵＧＧｐ）として正式に事業化されたことに伴い、ＵＧＧｐガイドラインに沿った審査やアドバイスが実施されることとなりました。今後は地域内の活動はもちろんのこと、世界を視野に入れた活動の推進も求められています。そのため、市町村だけでなく地域内の住民や各種団体と一体となって、これまで以上に保全活動や教育活動、経済活動などに取り組み、持続可能な開発を行うことに加えて他地域とのネットワーク活動や国際対応についても重要視されてきています。

２　下北ジオパークの現状

2016年９月の認定後に示された審査結果報告書では、優れたジオサイト及びジオパークに関連する歴史、文化、生態サイトが存在し、熱い思いを持つ地域住民や十分な体制の運営組織などが優れていると評価されました。その一方で様々な改善が望まれる点が挙げられました。それに対し2017年３月にアクションプランを策定後、改善策や新たな取り組みを講じた本計画を策定し推進してきました。保全管理計画を定めてモニタリングの仕組みを構築したり、むつ来さまい館にビジターセンターを整備したり、下北ジオパークサポーターの会・下北ジオパークガイドの会が設立されたりと様々な活動が広がっていきました。

2020年度の再認定審査では、新規認定時の指摘事項はクリアしていると評価されました。特に、推進計画に基づいた保全管理が実践されていること、メディアや種々の企画での高い可視性を示していること、ジオパーク教育がほとんどの学校で実施され、児童生徒が活発に地域のPRや学習の成果発表をしていること、来訪者に環境問題を意識させるツアーの実施や地場産品のブランド化なども積極的に行われていることが評価されています。

３　指摘された課題

2020年度の再認定審査結果報告において、日本ジオパーク委員会から指摘された今後の課題・改善すべき点について、解決することが求められています。以下にそれぞれの項目と内容、本計画への記載項をまとめます。

	項　　目	内　　容	推進計画への記載
1	可視性	鉄路での来訪者に向けた歓迎看板の設置	第５章　７.（２）
		協議会や関係団体のＳＮＳやホームページ等での一体的周知	第５章　７.（４）
2	地形・地質以外の遺産との関係	自然遺産や文化遺産と地形・地質との関連性の明確化	第５章　５.（１）
3	ツーリズム	観光関係者との連携不足	第５章　１.（３）
		ガイドツアーでの説明の仕方の工夫	第５章　１.（４）
4	地球科学的価値	仏ヶ浦の火山地質学的位置づけの再整理	第５章　４.（３） 第５章　５.（１）
		宇曽利湖周辺の火山活動履歴の再整理	第５章　４.（３） 第５章　５.（１）
5	境界線	沿岸を含めた範囲をジオパークの領域の検討	第５章　５.（１）
6	解説板	ストーリーとサイトの位置づけの再検討	第５章　７.（２）
		他ジオパークの優良事例の取り込み	第５章　９.（１）
7	気候変動	気候変動に関する研究の不足	第５章　４.（３）
8	管理体制	協議会と構成市町村の各担当部局との連携	第３章
9	地域住民の関わり	無形文化遺産を管理する団体との連携強化	第５章　６.（１）
10	パートナーシップ	役割分担を明記した書面での協定	第５章　９.（２）
		漁業関連団体との連携	第５章　９.（２）
11	防災	防災活動方針の改訂	第５章　３.（１）
		来訪者が速やかに避難できる仕組みづくり	第５章　３.（１） 第５章　１.（４）
12	ネットワーク	他ジオパークへの優良事例の紹介	第５章　９.（１）
		ユネスコ世界ジオパークとの連携	第５章　８.（１）
		世界大会への参加	第５章　８.（１）

４　地域振興の課題

（１）住民活動の支援

下北地域において住民のジオパーク認知度は非常に高まってきていますが、理解度には向上の余地があります。また、地域住民との意見交換の場がなく、「地域の知」を集められていません。

ジオパーク活動に興味・関心のある個人や企業、団体で組織する「下北ジオパークサポーターの会」が2017年に設立され、保全活動などに取り組んでいます。主体的な住民活動が進み始めた一方、その活動には地域差が見られることが課題です。

（２）物産の振興

下北の各地域において、その場所らしい特徴的な商品が販売されています。2017年には「下北ジオパーク認定商品制度」を創設し、現在までに様々な商品が認定されていますが、「下北ジオパーク」らしいストーリー性のある商品はまだ不足しています。地域内外での認定商品の認知度もまだまだ向上の余地があります。

下北ジオパークサポーターの会の活動

（３）サスティナブルツーリズムの推進

当地域のサイトには観光地として整備されている場所も多く、それぞれ一定数の観光客が訪れていますが、観光地及び観光客ごとの来訪目的や移動ルート、ジオパークの認知度に関する統計が不足しており、求められるニーズを把握しきれていないのが現状です。また、各サイトをまわるモデルコース及び旅行商品が不足しているため、観光客の下北地域での滞在時間が短く、地域にお金が落ちる仕組みが確立されていないのも課題です。また、地域の観光関係者の中にはツアー時に協力いただいている個人・団体もありますが、連携はまだ不足しているといえます。

（４）ジオガイドの養成

2019年に下北ジオパークガイドの会が設立され、2020年からは有料で行うガイド体制が始まりました。しかし、ガイドの方法に工夫が不足していると指摘されており、ガイド技術の向上が求められています。実働ガイド数が多くはないため競争による技術向上や、スキルアップの機会が不足しています。

下北ジオパークガイドの会設立総会

５　学習・教育への活用に関する課題

（１）ジオパークを活用した学習の推進

学校教育においては、地域学習や理科、社会科などの教科等でジオパークが活用されるよう学習用テキストを作成し、学習素材としてジオパークに取り組みやすい環境を整備してきました。しかし、学習用テキストの活用例や実践例を教員などに紹介してこなかったため、活用や導入率はまだ向上の余地があります。

（２）生涯学習でのジオパークの活用

地域住民に対しては、要望に応じて出前講座や市民大学、ツアーを実施してきました。2019年に設立された下北ジオパークガイドの会は、地域の語り手として活動を始めています。自主的に学びたい人に対しても、2020年に発売された下北ジオパークガイドブックやむつ来さまい館のビジターセンター、図書館にて学べるよう整備を進めました。今後も引き続きこれらを学べる体制を維持強化していくことが課題です。

（３）学習・活動発表会の開催

各学校において行われている学習や地域住民の活動の成果を口頭や成果物の展示によって発表し、地域特有の資源やジオパークについての理解を深め、子どもたちを含めた地域住民の交流を促進させる機会として、2017年度から学習・活動発表会が開催されており、その取組と発表内容は地域内外から高く評価されています。参加者にとっては、生活圏外の学校や地域団体の取り組みについて知る機会となっています。今後も子どもたちを含めた地域住民が地域資源の価値を再認識し発表する機会を確保するために、発表会は引き続き開催していくことが課題です。

（４）ジオパークを活用した学びの深化

下北ジオパークの活動が始まってからジオパークを活用した学習に取り組む学校が増加しており、それに伴いジオパークに興味・関心を持つ子どもが増えてきています。しかし、学校以外でジオパークを活用した学習に取り組み、より深い学びが得ることができる、子どもたちの受け皿となる機会がありません。また、高校生が下北ジオパークの推進の担い手となれるよう、支援していくことが課題です。

（５）環境教育の推進

ジオパークの活動では変動する地球や環境に対応した取り組みが求められていますが、地域住民に対してそれらを周知していく機会がこれまでなかったことが課題です。

６　防災・減災の課題

（１）ジオパークとしての防災・減災へのアプローチ

近年、下北ジオパークの地域で大きな被害をもたらした災害は発生しておらず、住民全体として防災・減災の意識には向上の余地があります。下北がジオパークとして考えうる災害とその対応について、住民に周知し、意識させていくことが課題です。

また、関係団体や各自治体の防災セクションと協力し、来訪者もハザードマップを確認できるような対策が不足しています。

（２）防災教育の推進

過去に地域内で発生した災害の事例を洗い出し、災害が発生するメカニズムなども含めて住民に周知し防災意識を高める出前講座を創設しました。ジオパークでの防災出前講座は認知度がまだ低いのが現状です。

７　研究活動の推進に関する課題

（１）学識経験者・有識者との連携

これまでに、弘前大学と青森中央学院大学、八戸工業大学とは、連携し協力体制を築いています。また、国立研究開発法人海洋研究開発機構とも2017年７月に包括連携協定を締結し、その一環で研究を補助できるサポート体制の構築が可能となりました。しかし、下北地域の資源に関してはまだ研究の余地があり、既存研究の整理もついていません。また、下北について詳しい有識者の把握、連携は今後の課題です。

（２）研究者の受け入れ体制の整備

学識経験者をはじめとする研究者誘致を促進していくことを検討していますが、地域住民に対して研究活動の重要さや研究誘致がもたらす効果を周知が不十分で、受け入れ体制は整っていません。また、研究テーマの参考となる情報やデータベース、研究者が法規制のある地域への立ち入り、岩石の採取などを行う際の手続きの方法の教示など支援体制がまだ整備できていないことが課題です。

（３）研究の推進

下北地域における研究は、恐山の火山や尻屋崎のメガロドン化石をはじめとした地質学的論文や、ニホンザルやイルカの生態系の研究は積極的に行われていますが、ジオパークで活用する地域資源の学術的価値を裏付ける論文は不足しています。また、下北ジオパークを象徴する地質学的価値を裏付ける国際的な論文もありません。

下北ジオパークの学術的価値を高めていくことを目指し、2017 年度から研究費補助制度を開始しました。今後も研究対象地域として周知していくとともに、下北の地域資源の質の向上・増加、弘前大学との共同研究、気候変動をはじめとする地球環境問題に関する研究の支援として研究補助金制度を継続していくことが課題です。

（４）研究成果の周知

研究された成果を地域住民へ周知し、地域への関心を深めることを目的に、2017年度から学術研究発表会を行なっています。今後も発表会を継続的に開催し、地域住民へ周知していくとともに、地域外へも発信していくことが課題です。また、地域資源の価値を共有し郷土愛を醸成するとともに、研究活動が促進されることで宿泊業・飲食業をはじめ地域振興に好影響があることの周知が課題です。

学術研究発表会

８　地域資源の保全における課題

（１）地域資源の価値の明確化

2019 年度から、日本ジオパークネットワークの保全に関する指針に合わせて地域資源をジオサイト、自然サイト、文化サイトへと再整理を行ってきました。これまで活用がなされてきた場所を優先して定めましたが、サイトとして活用するための基準と手続きが整理されていないことや、自然遺産や文化遺産と地形・地質遺産との関連が明確にされていないことが課題となっています。また、保全すべき対象としての海域の設定がなされていないことが指摘されています。

（２）保全体制の構築

下北ジオパーク保全方針にて、「保全」とは自然や自然資源を保護しながら懸命にかつ合理的に利用していくことと定義しています。下北ジオパーク保全管理計画は下北ジオパークの保全についての意識の共有し、地域一体となった保全活動の実施を通じて、地域のブランド力の向上と郷土愛の醸成を図る目的で策定されました。今後、この保全管理計画に基づき、モニタリングの対象や危険箇所についてまとめたマニュアルを元に、活動を広く地域住民や行政機関に周知していくことが課題です。

（３）地域住民との連携

地域資源を持続的に保全していくためには、地域住民が資源の価値を理解した上で、保全の取り組みを行っていくことが重要です。現状、地域住民による海岸の清掃活動などが定期的に行われているため、このような活動を支援するとともに、保全がなぜ重要なのかを改めて考える機会を設け、保全に対する理解を深め、保全活動を推進することが課題です。

９　無形文化遺産の活用に関する課題

（１）無形文化遺産の活用

下北地域に様々ある地域の遺産について、特に無形文化遺産と地形・地質遺産との関連性が十分に検討されていません。必要に応じた活用や管理団体との連携についての検討も課題です。

10　可視性（ビジビリティ）の整備の課題

（１）ビジターセンター、拠点施設の活用

ジオパークを学習する児童・生徒や地域住民、来訪者がジオパークを知る手段となる、ビジターセンターなどの施設が整備されつつあり、ジオパークの基礎知識や紹介などを行っています。今後は、ビジターセンターなどの施設の利活用増加を目的に存在を住民に広く周知するため、体験型メニューの提供や、住民同士で交流し合う場としての整備、来訪者の意見も踏まえた展示物の更新・追加をしていくことが課題です。

（２）各種看板の設置

ジオパークに関連する看板は、地域の入り口に設置する歓迎看板、サイトへの経路を示す案内看板、現地にてサイトの説明を記載した解説看板の３つがあります。それぞれ不足や記載に工夫が足りないことが指摘されています。

看板の盤面についてはジオパーク全体でも議論されており、他ジオパークの事例を参考にした盤面の検討が課題です。

（３）パンフレットの整備

パンフレットは、ターゲットや使用目的に応じて多言語化も含め、適切な作成が課題です。また、2020年に発売となったガイドブックは、今後の研究の進展やサイトの再検討に合わせて更新が必要です。

（４）メディアプロモーション

下北ジオパークのホームページやＳＮＳでの周知は頻繁に更新している一方で、協議会構成団体やほか関係団体のホームページなどで一体的な周知が不十分であることが指摘されています。地域外での認知度向上も合わせ、様々な場で下北ジオパークに触れられるようプロモーション活動を推進していく必要があります。

11　国際対応の推進における課題

（１）国際活動の推進

　世界ジオパークネットワークではジオパーク同士の交流を推奨しており、国際活動、国際貢献はジオパーク活動の評価対象となっています。国際的なネットワーク活動として、世界ジオパークネットワークで開催する世界大会などにはまだ参加しておらず、海外の交流先となるユネスコ世界ジオパークも未検討です。

12　ネットワーク活動の推進に関する課題

（１）ネットワーク活動の推進

　ジオパークでは、ネットワークを活用して他ジオパークの事例を学び合うことが推奨されていますが、下北ジオパークで行った取り組みの発信の弱さが指摘されました。発信力の強化と他ジオパークの優良事例を吸収が課題です。

（２）パートナーシップの構築

　ジオパーク地域内の取り組みを推進していくために、宿泊業者や漁業者など関係する各種団体と書面によるパートナーシップ協定を組むことが課題です。

13　ＳＤＧｓへの取り組みに関する課題

（１）ＳＤＧｓの周知活動の推進

　ジオパークの活動は世界的な課題としてあげられるＳＤＧｓを内包している取り組みであることと、３ページで上げた下北ジオパークで取り扱う10目標について、まだ周知が不足しています。

第５章　下北ジオパークの推進と展開

１　地域振興

（１）住民活動の支援

【現状と課題】

○「下北ジオパークサポーターの会」をはじめ、地域団体や地域住民と連携して行ってきた活動を継続する必要がある
○地域住民との意見交換の場が少ない
○ジオパーク活動の理念等、地域住民の理解度が不十分

【今後の展開】

○「下北ジオパークサポーターの会」をはじめとする住民活動の周知と支援
○地域住民との意見交換会の実施
○夢実現プログラム補助金の活用促進

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
住民活動の周知と支援	設立支援	活動支援	→	→	→	→	→	→
地域住民との意見交換会の実施		→	→	→	→	→	→	→
夢実現プログラム補助金の活用促進	設立	→	→	対象拡大	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
地域住民との意見交換会の実施回数	２回（１回）	５回（０回）	１２回
下北ジオパークサポーターの会をはじめ、地域住民と協働して行う行事の回数（累計）	１０回（６回）	１５回（１４回）	２５回
夢実現プログラム補助金の活用件数（累計）	（９件）	（１８件）	３０件

（２）物産の振興

【現状と課題】

〇認定商品制度が整備されたものの、商品数が不十分

〇地域内外における認定商品の認知度の不足

【今後の展開】

〇認定商品制度の継続的な運用

〇パンフレット作成や広報活動推進による販売促進

〇地域内外におけるイベントでの活用

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
認定商品制度	制度創設	運用 →	→	→	→	→	→	→
広報活動推進による販売促進	→	→	→	→	→	→	→	→
地域内外におけるイベントでの活用		→	→	→	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
認定商品数	２５商品 （２７商品）	３０商品 （３３商品）	５０商品
イベントの開催数（累計）			５件

（３）サスティナブルツーリズムの推進

【現状と課題】

〇ターゲットに応じたモデルコース及び旅行商品の不足
〇観光客の来訪目的、ニーズ等調査の未実施
〇観光関係者との連携不足

【今後の展開】

〇（一社）しもきたＴＡＢＩあしすとをはじめとする観光業者との連携強化
〇観光業者と観光関係者を巻き込んだ取り組み
〇モニターツアー及び観光客モニタリングによるニーズの調査
〇教育旅行やコンセプトツアーの造成

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
観光業者との連携強化			→	→	→	→	→	→
観光業者および観光関係者を巻き込んだ取り組み					情報収集	連携 →	→	→
モニターツアー及び観光客モニタリングによるニーズの調査	→	→	検証		→ 集計	→	検証	集計
教育旅行やコンセプトツアーの提案			→	→	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
ツアー商品数	７商品 （４商品）	10商品 （４商品）	15商品
宿泊者数	176,700人 （244,807人）	193,700人 （未）	200,000人

※宿泊者数は、（一社）しもきたＴＡＢＩあしすとの目標値を参考とした。

（４）ジオガイドの養成

【現状と課題】

○「下北ジオパークガイドの会」が設立された。今後は、ガイド数のさらなる拡充が必要

○ガイドツアーでの説明のしかたの工夫がなされていない

○ガイドがスキルアップできる機会の不足

【今後の展開】

○ジオ検定および新規認定講座の開催

○スキルアップ研修による認定ガイドのレベル維持及び向上

○「下北ジオパークガイドの会」が行う自主研修への支援

【計画スケジュール】

今後の展開	2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024	
ジオ検定および新規認定講座の開催		制度設立						ジオ検定	認定講座	ジオ検定	認定講座	ジオ検定	認定講座	ジオ検定	認定講座	ジオ検定
スキルアップ研修の実施							実施		実施		実施		実施		実施	
自主研修への支援							→		→		→		→		→	

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

○ガイド自主研修の継続的な支援

指標名	2018年	2020年	2024年
認定ガイド数	35名 （27名）	60名 （33名）	50名
スキルアップ研修の実施回数		（５回）	６回

２　学習・教育への活用

（１）ジオパークを活用した学習の推進

【現状と課題】

〇出前講座や現地学習など、学校においてジオパークを活用した学習が取り組まれるようになったため、今後も継続と発展が必要

〇学習用テキストの整備は進んでいるが、定期的な見直しおよび新たなテキストの開発が必要

〇教員がジオパークについて学ぶ機会の不足

【今後の展開】

〇ジオパーク教育促進事業費補助金制度の活用促進

〇小中学校及び高等学校における学習用テキストの作成・活用促進・見直し

〇教員向けの研修会の実施

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
学習用テキスト	作成 → 完成	活用 →	→	→	改定検討 →	→	→	→
教員向けの研修会					内容検討 → 調整	実施 →	→	→
ジオパーク教育促進事業費補助金制度の活用促進	創設 → 運用	→	→	→ 対象変更	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
ジオパーク教育促進事業費補助金を活用して学習した学校数	４件（３件）	５件（４件）	６件
教員向け研修会の実施回数			３件

（２）生涯学習でのジオパークの活用

【現状と課題】

〇生涯学習におけるジオパークの活用が不十分

〇学習のための施設や環境の整備が不十分

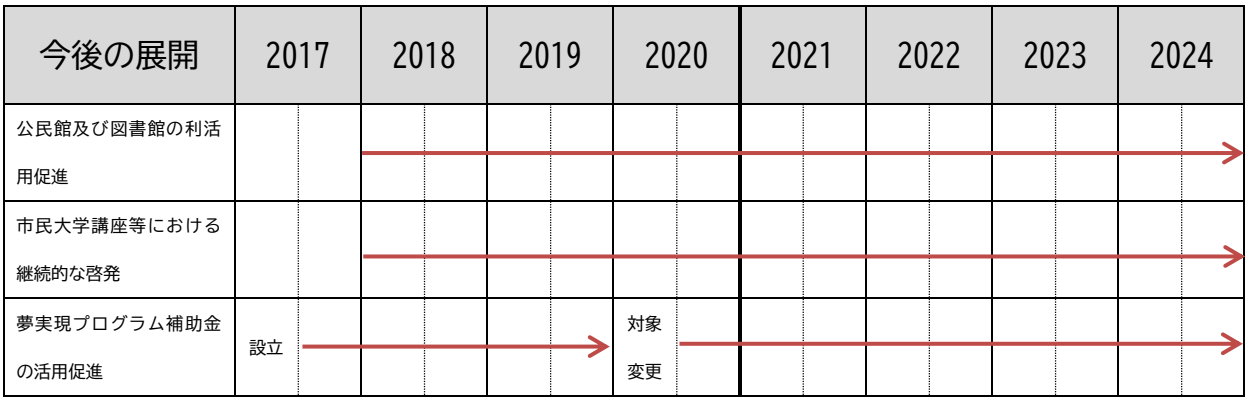
【今後の展開】

〇意見交換会の実施をはじめ学びの場としての公民館及び図書館の利用増加

〇市民大学講座等における継続的な啓発

〇夢実現プログラム補助金の活用促進

【計画スケジュール】



【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

〇学びの場としての公民館及び図書館の利用増加

〇市民大学講座等への継続的な参画

指標名	2018年	2020年	2024年
再掲： 夢実現プログラム補助金の活用件数（累計）	（９件）	（18件）	30件

（３）学習活動発表会の開催

【現状と課題】

○「下北ジオパーク学習活動発表会」が行われるようになり、各学校で取り組まれている地域学習や、地域住民の活動を発表する場ができたため、今後も継続が必要

○生活圏外の学校や地域団体の活動の認知不足

○学習成果物を共有できる機会の不足

【今後の展開】

○「下北ジオパーク学習活動発表会」における学習や活動の発表

○より多くの地域住民が参加できるよう開催地を各地に移して実施

○学習活動発表会開催地以外での成果物展示の実施

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
学習活動発表会の開催	開催	開催	開催	開催	開催	開催	開催	開催
開催地以外で成果物展示					展示	展示	展示	展示

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
発表会（ステージ・ポスター等）に参加した団体数	３０団体 （２６団体）	３５団体 （１９団体）	４０団体

（４）ジオパークを活用した学びの深化

【現状と課題】

〇ジオパークに興味がある子の受け皿がなく、児童・生徒がより深い知識を得るための環境が整備されていない

〇高校生の活躍の場が未整備

【今後の展開】

〇下北ジオキャンプの開催・拡充

〇下北ジオパークビジターセンターにおける体験メニューの実施

〇高校生が地域外に発信する機会の創出

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
下北ジオキャンプの開催				内容検討	開催	開催	開催	開催
体験メニューをはじめとするVC活用				VC完成	体験提供 →	→	→	→
高校生が地域外に発信する機会の創出				内容検討	準備 JGN大会	JGN大会	JGN大会	JGN大会

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
下北ジオキャンプの開催件数			４件
体験メニューの実施回数			18回
高校生のJGN大会での発表回数（累計）			４回

（５）環境教育の推進

【現状と課題】

〇変動する地球環境への問題提起ができていない

【今後の展開】

〇海洋ごみや地球環境問題に関する、関連団体と協働した講演会や出前講座の実施

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
講演会や出前講座の実施					内容検討 → 提供	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
地球環境問題に関する講演会や出前講座の実施回数			４回

３　防災・減災

（１）ジオパークとしての防災・減災へのアプローチ

【現状と課題】

〇災害が発生するメカニズムの理解の不足
〇過去の災害事例の洗い出しは行ったものの、資料等の整理が不十分
〇災害発生時の対応について、関係団体と連携して行える仕組みの整備が必要

【今後の展開】

〇他ジオパーク地域との防災・減災に関する情報交換や交流の推進
〇各自治体防災セクション、地域団体、地域事業者を巻き込んだ取り組み
〇防災活動方針への災害発生時の対応に関する連携体制の明記
〇ガイドに対する災害発生時の対応に関する研修の継続的な実施

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
他地域との防災・減災に関する情報交換や交流				→				→
各自治体防災セクション、地域団体、地域事業者を巻き込んだ取り組み					情報収集 → 連携			→
防災活動方針への災害発生時の対応に関する連携体制の明記				方針策定	内容検討 → 協議	方針改訂		
ガイドに対する災害発生時の対応に関する研修の継続的な実施			→	→	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇各自治体防災セクションとの連携強化
〇連携強化による地域団体、地域事業者の理解促進

（２）防災教育の推進

【現状と課題】

〇防災・減災について学ぶ機会の不足

【今後の展開】

〇災害や防災・減災に関する学習会や防災・減災学習出前講座の実施

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
災害や防災・減災に関する学習会や防災・減災学習出前講座の実施				講座提供開始 → 利用促進	→ 学習会	学習会	学習会	学習会

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
学習会や出前講座の実施回数		（１回）	３回

４　研究活動の推進

（１）学識経験者・有識者との連携

【現状と課題】

〇日本各地の教育・研究機関との連携不足
〇地域内の有識者を把握できていない

【今後の展開】

〇下北ジオパークの調査・研究を促進することを目的とした各地の教育・研究機関へのはたらきかけ
〇地域内の研究者・学識経験者・有識者等のリスト化
〇下北ジオパークに関する情報の照会

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
研究者・学識経験者・有識者等のリスト化		→	→	→	→	→	→	→
各地の教育機関へのはたらきかけ					情報収集 / 手法検討	実施 →	→	→
下北ジオパークに関する情報の照会		→	→	→	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇地域内外の研究者・学識経験者・有識者の把握および連携
〇教育・研究機関との連携

（２）研究者の受け入れ体制の整備

【現状と課題】

〇地域一体となった研究・研究者への支援体制が未整備

〇研究の基礎や足掛かりとなる、地形・地質、生物・生態系、生活・文化に関するデータベースが未整備

【今後の展開】

〇研究支援窓口の整備

〇地域住民の研究活動への理解促進

〇下北ジオパークのサイトカルテ等、様々な事物に関するデータベース作成

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
窓口の設置		資料収集 協議	開設検討 →		開設 →			
地域住民の研究活動への理解促進					理解促進 →			
データベース作成	情報収集	作成 →			公開準備 公開 →			

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇データベースの完成と活用

〇研究活動の受け入れ体制の構築

（３）研究の推進

【現状と課題】

〇補助金制度の設立や共同研究の実施により、研究が進められているものの、継続的な制度の運用およびさらなる促進が必要
〇下北に関する地球科学的研究論文の不足
〇研究対象地域としての周知不足
〇地球環境変動（気候変動等）に関する研究の不足

【今後の展開】

〇地球科学的価値を担保するための共同研究の推進
〇研究補助金制度の継続
〇地球環境変動（気候変動等）に関する研究の推進

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
共同研究の推進			検討	実施	→	→	→	→
研究補助金制度	創設 公募	公募	公募	公募	公募	公募	公募	公募
気候変動に関する研究の推進					情報収集 検討	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
研究補助制度への応募件数			10件
国際誌掲載（累計）			1本
邦文誌掲載（累計）			4本

（４）研究成果の周知

【現状と課題】

〇地域内での研究成果報告の場として「下北ジオパーク学術研究発表会」が行われているが、地域住民に対する還元が不十分

〇研究成果を地域外に発信する仕組みができていない

【今後の展開】

〇「下北ジオパーク学術研究発表会」の開催

〇研究成果等の冊子化

〇地球科学的価値をテーマとしたシンポジウムの開催

【計画スケジュール】

今後の展開	2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		2024	
「下北ジオパーク学術研究発表会」の開催		開催		開催		開催		開催		開催		開催		開催		開催
研究成果等の冊子化			公表		公表		公表	報告書	公表		公表		公表		公表	報告書
シンポジウムの開催									情報収集	協議	開催		開催		開催	

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇児童・生徒や地域住民の地域や研究への興味増進

〇冊子化した研究報告書の活用

５　地域資源の保全

（１）地域資源の価値の明確化

【現状と課題】

〇サイトとして活用するための基準と手続きが整理されていない
〇自然遺産や文化遺産と地形・地質遺産との関連が明確にされていない
〇保全すべき対象としての海域の設定がなされていない

【今後の展開】

〇新たなサイトを設定するための手順の明確化
〇サイトカルテへの記載と内容の検討
〇海域における地域資源の整理および海域範囲指定の検討

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新たなサイトを設定するための手順					作成　運用			
サイトカルテへの記載と内容の検討					意見集約	検討作成 →	→	→
海域における地域資源の整理および海域範囲指定					情報収集　検討	承認　拡大申請		

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇サイト設定に関する手順の運用・更新
〇海域を含む地域資源の価値の明確化

（２）保全体制の構築

【現状と課題】

〇国定公園などにおける地域資源の保全の仕組みについての周知が不十分
〇サイトの資源を保全するためのモニタリングが実施されており、今後も継続的な観測が必要
〇サイトの危険箇所等の把握が不十分

【今後の展開】

〇国定公園内での禁止事項等に関する看板やパンフレットによる周知
〇保全管理計画にもとづくモニタリングマニュアルの作成・運用・更新
〇モニタリングの継続的な実施
〇サイトの変化に関する定期的な観測と、ウェブサイトやＳＮＳによる来訪者に対する情報提供

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
看板等の整備および来訪者への情報提供		協議 →	作成 設置 →	→	→	→	→	→
保全管理計画にもとづくモニタリングマニュアルの作成・運用・更新				作成 運用	適宜 更新 →	→	→	→
モニタリングの継続的な実施				実施 →	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
モニタリング確認書の提出件数		（７２件）	９８件

（３）地域住民との連携

【現状と課題】

〇地域資源の保全に対する住民の理解や参画が不十分

【今後の展開】

〇地域資源の保全に関する住民向けの勉強会や意見交換会の開催

〇サポーターの会をはじめとする地域住民が行う清掃活動等の周知・支援

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
地域住民向けの勉強会や意見交換会の実施					開催 →	→	→	→
サポーターの会をはじめとする地域住民が行う清掃活動等の周知・支援	支援 →	→	→	→	→	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
再掲： 地域住民との意見交換会の実施回数	２回 （１回）	５回 （０回）	１２回
再掲： 下北ジオパークサポーターの会をはじめ、地域住民と協働して行う行事の回数（累計）	１０回 （６回）	１５回 （１４回）	２５回

６　無形文化遺産の活用

（１）無形文化遺産の活用

【現状と課題】

〇ジオパークと無形文化遺産との関連性が十分に検討されていない
〇無形文化遺産の活用が不十分
〇無形文化遺産を管理する団体との連携の不足

【今後の展開】

〇無形文化遺産と地形・地質とを絡めたストーリーの検討
〇無形文化遺産を管理する団体との連携強化

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
無形文化遺産と地形・地質とを絡めたストーリーの検討					情報収集 検討			
無形文化遺産を管理する団体との連携強化					情報収集 連携	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇連携強化による関係団体の理解促進

７　可視性（ビジビリティ）の整備

（１）ビジターセンター、拠点施設の活用

【現状と課題】

〇ビジターセンターは整備されたものの、拠点施設の整備と展示物の拡充が必要
〇住民の認知度が不足している
〇住民交流のきっかけとなる場所の不足

【今後の展開】

〇住民交流の場所の整備と拠点施設における展示の拡充
〇体験メニューの実施をはじめとする下北ジオパークビジターセンターの活用

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
交流・拠点施設の整備と展示拡充の実施		整備・展示拡充 →				VC展示改修	展示拡充 →	
体験メニューをはじめとするＶＣ活用				ＶＣ完成	体験提供 →			

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
ビジターセンターの来訪者数		（約5000人）	２万人
再掲： 体験メニューの実施回数			18回

（２）各種看板の設置

【現状と課題】

〇鉄路での来訪者に向けた歓迎看板が設置されていない
〇案内看板の不足
〇解説看板に文字が多く、ジオパーク全体のストーリーとその位置付けが読み取りづらい

【今後の展開】

〇JR 駅への歓迎看板の設置
〇看板設置計画に基づく看板設置
〇他ジオパークの事例を参考にした盤面の検討

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
JR駅への歓迎看板の設置					設置			
看板設置計画に基づく看板設置				12基設置済み	2基設置	2基設置	2基設置	盤面貼替
他ジオパークの事例を参考にした盤面の検討					情報収集 盤面確定			

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値

指標名	2018年	2020年	2024年
看板設置計画に基づく看板設置数（累計）		（12ヶ所）	18ヶ所

（３）パンフレットの整備

【現状と課題】

〇パンフレット類の作成・更新目的が明確でない

〇2020 年に発行したガイドブックの内容は最新の情報を盛り込む必要があり、随時更新が必要

【今後の展開】

〇パンフレットの体系化の継続的な更新

〇体系化に基づくパンフレットのリニューアル

〇ガイドブック改訂に向けた編集委員会の設立と活動

〇ガイドブックの改訂

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
パンフレットの体系化の作成・更新				作成	更新	更新	更新	更新
体系化に基づくパンフレットのリニューアル				内容検討 / 作成配布	→	→	→	→
ガイドブックの改訂		編集委員会設立	編集作業	刊行		編集会議	編集作業 →	改訂

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇パンフレット、ガイドブック発行による学習意欲の増加と観光客の増大

（４）メディアプロモーション

【現状と課題】

〇協議会や関係団体のＳＮＳやホームページ等での一体的な周知が不十分

〇地域外での認知度が低い

【今後の展開】

〇下北ジオパークのロゴマークの普及促進

〇フェイスブックやインスタグラム等、ＳＮＳを活用した広報活動の充実

〇協議会ホームページへアクセスしやすい環境の整備

〇ＴＶ番組をはじめマスメディアで取り上げられる機会の創出

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
下北ジオパークのロゴマークの普及	要項作成	普及促進	→	→	→	→	→	→
協議会HPへアクセスしやすい環境の整備					内容検討 打診	→	→	→
ＴＶ番組をはじめマスメディアで取り上げられる機会の創出					調整	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

〇各ＳＮＳの閲覧数の向上

指標名	2018年	2020年	2024年
バナーの掲載数			３６

８　国際対応の推進

（１）国際対応の推進

【現状と課題】

〇国際交流による教育・科学・文化の振興の推進不足
〇下北地域を取り扱う海外研究者への支援体制が未整備
〇海外のジオパークとの連携や交流の不足

【今後の展開】

〇英語版ガイドブックの整備
〇パンフレットをはじめ、受入地や受入施設での他言語対応の整備
〇ＧＧＮ（世界ジオパークネットワーク）やＡＰＧＮ（アジア太平洋ジオパークネットワーク）大会への参加
〇国際連携協定先の検討・締結

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
英語版ガイドブック整備					作成 印刷 製本			
他言語対応整備					整備 →	→	→	→
世界大会への参加					GGN	APGN	GGN	APGN
連携先の検討						検討 →	→	締結準備 協定締結

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
ＧＧＮ・ＡＰＧＮ大会への参加回数（累計）			４回
国際連携協定の締結数			１地域

９　ネットワーク活動の推進

（１）ネットワーク活動の推進

【現状と課題】
〇下北ジオパークで行った取り組みが他ジオパークに発信されていない
〇他ジオパークの優良事例の収集が不十分

【今後の展開】
〇日本ジオパークネットワーク全国大会での発表
〇各種学会年会での発表
〇全国研修会の実施
〇ビジビリティをはじめ、優良事例を持つジオパークへの訪問

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ＪＧＮ大会および各種学会年会への参加	大会参加	大会参加	大会参加	大会参加	大会参加	大会参加	大会参加	大会参加
全国研修会					情報収集 協議	体制整備 実施		
優良事例を持つジオパークへの訪問					訪問	訪問	訪問	訪問

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】　※（　）内は実績値
〇全国研修会の実施

指標名	2018年	2020年	2024年
ＪＧＮ大会および各種学会年会への参加回数	（２回）	（１回）	３回
優良事例を持つジオパークへの訪問回数（累計）			８回

（２）パートナーシップの構築

【現状と課題】

〇各種団体との明文化されたパートナーシップ協定の不足

【今後の展開】

〇協定を結ぶべき団体（飲食店、物産業、農林水産業、宿泊事業者、開発事業者）のリスト化

〇協定内容の検討・締結

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
協定を結ぶべき団体のリスト化					情報収集 → 作成	総会報告		
協定内容の検討・締結						検討 →	→	締結準備 → 協定締結

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
協定締結数			１件

10　ＳＤＧｓへの取り組み

（１）ＳＤＧｓの周知活動の推進

【現状と課題】

〇地域住民へのジオパーク活動とＳＤＧｓの関連性の周知不足

【今後の展開】

〇推進計画へのＳＤＧｓの記載

〇ＳＤＧｓに関する出前講座のメニュー化

【計画スケジュール】

今後の展開	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
推進計画への記載					記載			改訂
出前講座のメニュー化					検討 作成 実施	→	→	→

【指標（ＫＰＩ）又は目指すべき姿】

指標名	2018年	2020年	2024年
ＳＤＧｓに関する出前講座の開催（累計）			４回

第６章　進行管理と推進計画の検証

（１）事業の実施・進捗状況の管理

下北ジオパーク推進協議会は、事業の着実な実施に当たって、毎年度、取り組むべき各施策の進捗状況の進行管理を行い、その結果・効果等を評価・検証し、必要な見直しを行いながら、次年度以降の展開に反映させるものとします。地域住民や来訪者のニーズの動向等を踏まえ、効果的かつ有効的な事業推進に努めます。

（２）事業の展開手法

限られた予算を有効に活用し、より円滑な施策・事業を展開するために、Plan－Do－Check－Action（計画－実行－検証－改善）のマネジメントサイクルを活用します。

（３）ＰＤＣＡサイクルの検証

ＰＤＣＡサイクルが適切に活用されたか以下の点に沿って検証を行います。

１．「Plan」の検証

的確な目的・目標のもと5W1Hに則った計画を策定できたか、「Plan」は明確であったか、期間設定に問題はなかったかについて検証します。

２．「Do」の検証

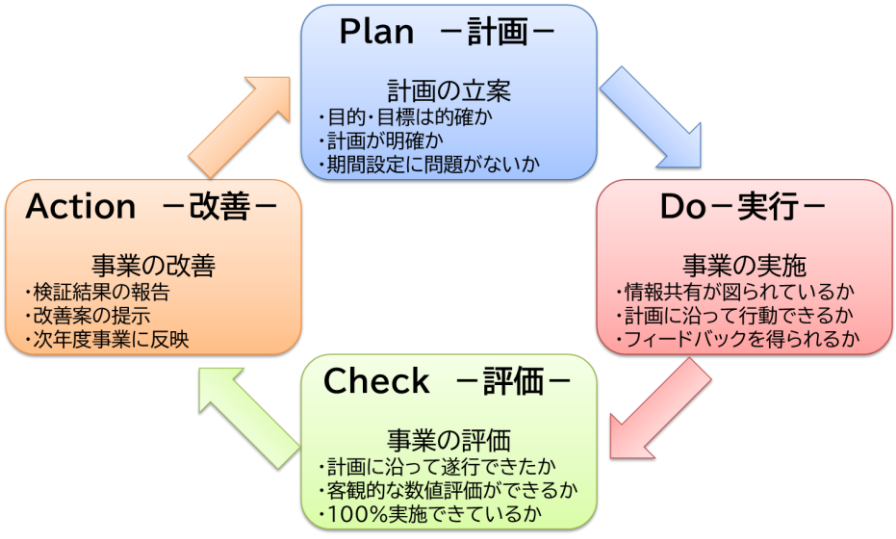
情報共有を図りながら計画を素早く行動に移し、フィードバックを得ることができたかを検証します。

３．「Check」の検証

事業完了後に、計画に沿って遂行されたか、数字を基準として客観的に検証します。検証結果は専門部会および幹事会へ報告と説明を行います。

４．「Action」

事業ごとの検証結果と改善案を幹事会および総会へ提示し、会議では「Action」のみ議論します。



ＰＤＣＡサイクルの設定ポイント